

令和4年度 幼児・児童教育研究センターの取組

幼児・児童教育研究センター 所長 古川元視

幼児・児童教育研究センターは、昭和56年（1981年）に設置され、別府大学短期大学部の研究活動の拠点として41年間歩んでまいりました。センターの主な内容としては、1 幼児・児童の発達とそれに応ずる教育の研究、2 教育課程・保育課程及びその指導方法等の研究、3 教材・教具の開発、製作指導及び資料の提供、4 幼児・児童教育に関する資料・図書等の収集、整理提供、5 幼児・児童の教育に関する講演会等の開催、6 地域における子育て支援事業、7 幼児・児童に関する相談事業、8 その他センターの目的達成のために必要な事業があります。

今年度は、11月22日（火）明星小学校において、「タブレット活用授業公開研究会」を実施しました。全学級授業公開、その後、情報交換会、講演会でした。初めての外部教員に向けての授業公開で、道徳、国語、理科、社会、生活、算数、英語という教科において、タブレットを活用した授業の提案でした。タブレットを活用した授業公開は、大分県内では珍しく、それも全学級公開というのは、明星小学校の先生方の意欲を感じることができました。校長先生はじめ全教職員に感謝申し上げます。

また、11月26日（土）午後から、別府大学3号館ホールにて「令和4年度 別府大学短期大学部公開講座」をZOOMにて実施しました。久保山茂樹氏(国立特別支援教育総合研究所・インクルーシブ教育システム推進センター上席総括研究員兼センター長)を講師としてお迎えし「『共生社会の担い手を育む』を保育・教育の合言葉に」の演題でご講演をいただきました。参加者は、大分県内の教育・保育現場の先生方や本学教員、学生でした。途中、ZOOMの接続が悪く、中断することがあり、講師の先生には大変ご迷惑をおかけしました。申し訳ありませんでした。

今年度も、実践報告では、境川保育園、春木保育園、別府大学附属幼稚園、明星幼稚園、明星小学校の先生方から、大変特色ある取組についても報告いただきました。昨年度から、本学と明星小学校、及び本学と附属幼稚園との連携プロジェクトを立ち上げました。連携を深めることで、研究を推進し、教職員の資質向上に寄与するものと考えております。連携の内容についても本レポートをご覧ください。また、別府大学短期大学部初等教育科教員による研究論文等も掲載しております。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の養成校としての教員の研究活動についても御覧いただけますとありがたく存じます。

昨年度に引き続き、本学の菅原准教授、大関講師、斎藤講師による「子育て相談」を実施しました。昨年度より多くの方々が相談に見えられました。また、センターレポート臨時増刊号も7月に発行をいたしました。

現在、幼児・児童に読んでほしい図書をそろえているところで、今年度購入しました図書リストも巻末資料に掲載しておりますので、参考にいただければ幸いです。

これからも、当センターでは、研究活動の拠点として様々な活動を行っていく予定です。奮って御参加いただきますようお願い申し上げます。